

0470

寫

總省者第○號

決 議 用 紙

大臣廳

總務局長

主任局長

任擔課長

總務局次長

起草

二月三日

件番
名號

士七廿第一二三三師

廳名

外務省

議 按

明治二十二年二月三日

市回至各案

東京海軍官海堡修員之東京洋英
國艦隊司令官に於て致水度方英
去公使申林に回公使より與會趣
申回八甲師出回會、趣致水度方英

未の経緯度より定むるに
 北緯五十二度四十分
 向の方位東二度四十分
 千五百二米突一十
 丁西二度四十分
 是也

二月五日

陸軍省
 送甲第一七六號

陸軍部

參元第九八號第二



五月二日
二月二日

0472



別紙より中一二を以て津海堡之位
 並に兼志鼓音外務大臣より照會之義
 付由照會之趣より兼志海堡正位並之義
 ハ未だ定奪未だ固テ定メタルモノハ無クテ於邊共觀
 音海燈臺より多量に海堡凸角に向フ方位
 ハ東ノ方四十分とシテ其巨離ハ六十百二年突
 一一ナリ又猿島東端より同所に向フ方位ハ東
 北ノ方六十百二十年とシテ其巨離ハ六十百二年九
 分五突ニ九ナリ但し針差ハ明治十二年と於テ西ニ
 交四十九分と有リ故に及ハズ也

明治二十一年一月三十日

陸軍部参謀長 副官 土屋 貞

0473

倭軍省防馬以長見島三浦文

受領 領省

一三三

號

工部省 第一號

一月廿二日

二月二日

送第

四四號

外務省

0474

東京湾富津岬、新設古成砲臺ノ位置
 等東洋英國艦隊司令官アドミラルハミルトン
 氏ヲ於テ致事知照者英國公使ハ申越然趣リ以テ
 則チ別紙譯文ヲ通シ公使ヨリ照會有之然ルレ
 ハ貴省ヲ於テ以テ關係ノ義多之故ハ亦件譯文
 座出取柄ノ上以報道亦以及以取及以座出取柄
 明治三十年一月廿二日

外務大臣伯井上馨

陸軍大臣伯大山巖殿



第六号

以書管政船上敘陳ハ東洋英皇艦隊司令官アドミラル
 ハルトン氏ハ以次東京湾富津岬(即チソラトヤ)ニ新
 設本城砲臺ノ正確ナル位置及方位ヲ通知致シ之ヲ
 其部下ノ艦隊ニ通告シテ該艦隊ニ通告シテ該艦隊
 カ横濱湾ニ入ル時ノ指導ニ致度旨曰氏ヨリ書管
 ヲ以テ拙者ハ依頼致来ル依テ閣下ニハ曰氏カ希
 望致報者ヲ以異存ナリ拙者ハ以送付可也此
 事ト拙者信認致致以段得者意ハ致矣

一千八百八十七年一月十九日

於東京英國公使館

英公使

エフ、アール、フリケット 記

小 務 官

外務大臣伯井上馨

閣下

父

弟

子

0477

陸軍省

陸軍省

陸軍省

陸軍省

列島第一二三師、道外各大臣より
照会を以て其ら富津海堡、正確十九位
百五七方位の印油を以て道外各大臣
度此の及出題人等也

陸軍省送乙第三〇二號

一月廿七日

陸軍省